

「基礎演習Ⅱ」の授業公開

教育学部 中 島 俊 典

1. 公開した授業

＊科 目 名：「基礎演習Ⅱ」（学部共通科目、必修）

＊公開日時：2009年11月11日（水）1時限

＊教 室：132教室

＊対象学生：教育学部2年生28名

2. 科目の概要

教育学部の必修の学部共通科目として平成20年度から開設されている。1年次の「基礎演習Ⅰ」に続く科目で、そこで学んだ調査・研究・発表等の基本を自ら実際の課題に適用して知の技法を体得するものである。学校教育課程では、10名の担当教員がそれぞれにテーマを示し、学生は希望を考慮してクラス分けされる。

このクラスは「科学技術－創造性と人」というテーマを掲げて、科学と技術に関する内容でもよいが、それだけではなく、物の考え方や人物像を取り上げてよいこととしている。物事の新しいとらえ方や考え方を見出し、自然科学のみでなく幅広く学問をするための視野を広げていって欲しいと考えている。

選択している学生は28名で、専修は国語、社会、数学、理科、音楽及び特別支援である。授業全体の構成は初めに学生が何に関心を持っているかをキーワードや簡単なコメントで発表する。次の段階で、構想発表として何をどのように調べていきたいかを1人あたり4分で発表し、1分の質疑討論をする。その次は、中間報告で1人あたり発表7分、質疑討論3分とする。これまでに調査研究した結果を発表し、質疑討論の内容を今後の調査研究につなげていく。発表後に中間報告の内容をレポートとして提出する。最後になるのが研究発表である。この持ち時間は1人あたり発表12分、質疑討論3分である。発表後に調査研究した内容に自分で考察したことを加えて、最終的な研究論文を提出する。

3. 公開された授業のねらい、内容

この時間は4回の中間報告の最後の時間であり、担当の7名の学生が自分で調査研究してきた内容を個別に発表した。それに対して他の学生が質問や討論をした。

この時間の目標は、学生が実際に発表をすることによって自分の調査研究の中間まとめをし、質疑討論によって調査研究の意義や問題点を確認し、今後さらに進めるべき方向を見つけることであり、他の学生は発表の内容の理解に努め、質疑討論で疑問点を明らかにすることにより、科学的な事象等を正確にとらえ、批判できる力を養うことである。

4. 参観のポイント

学生が中間報告をするのがこの時間のすべてであり、授業の構成や内容というよりも学生がどのように取り組んでいるかということがポイントとなる。発表をする学生の調査や

研究は適切であったかや発表の準備はしっかりとしていたか、また、他の学生が関心を持って耳を傾けて内容を理解し、質疑討論に加わったかなどを確認することが課題である。

5. 授業についての自評

この時間は学生が中間報告をするので、担当教員は全体の流れを見て、適宜、質問や補足説明をすることが役目であり、講義形式の授業とは異なる。

今回の発表は中間報告であり、調査研究も発表も完成された状態ではなく、不十分な部分があってもよいとしていた。そのためもあり、1人あたりの持ち時間を大幅に超えて、質疑討論の時間を使い果たしても終わらない者もあった。時間を厳しく制限する方がよいという考え方もあろうが、中間発表であることからなるべく学生の発表を途中で制止しないようにした。そのため当然に質疑討論の時間が短くなり、聞きたいことや意見を思うように発言できなかった学生もいただろう。今年度は学生数が昨年度に比べて大幅に増えたこともあり、もともと1人あたりの時間が十分でなかった。

今後も、発表をする学生と聞く側の学生両方の実態を見きわめながら、その都度、対応を考えていくつもりである。

なお、後日の最終発表では少し長い時間を割り当てたので、大幅な時間超過はなく、質疑討論の時間をほぼ十分に確保できた。発表の内容も、中間報告での質疑討論や中間報告論文への教員からのコメントを踏まえて、充実したものとなった。自分自身で行った実験結果を発表した学生もいた。

講義全体の流れの中で、中間段階での発表としてこの授業の効果は十分にあったものと判断する。

6. 授業公開について

授業公開は自分が授業をするにあたり大いに参考になるだろうと思う。特に関連する内容の授業やこの「基礎演習Ⅱ」のように同じ名称で別々の分野を扱っている授業は興味がある。しかし、実際には自分の授業などの時間と重なって参観できない。

少しずつでも様々な授業が公開されていけば、公開に参加できる機会も増えていくものと思う。

平成 21 年度 授業公開 授業計画書

2009 年 11 月 11 日(水)1 限

学部	教 育 学 部	授業者	中 島 俊 典		
授業科目名	単位数	講・演・実	年次	公開教室	
基 礎 演 習 II	必・選 (2)	講義	2	132	
本時の目標 担当の学生が自分で調査研究してきたテーマについて中間報告をすることと、他の学生が報告の内容を把握して質疑応答に参加することによって、科学的な事象等を正確にとらえ、批判できる力を養う。					
本時の内容 学生が調査研究をしている内容について中間段階の発表をする。テーマは科学技術、それに関わる人物、発明発見のアイディアなどについて、それぞれの学生が興味を持って取り上げたものである。各発表の後、全員で質疑討論をする。					
本時の展開 中間報告の4回目として、8名の学生が調査研究の内容を個別に発表し、それぞれについて全員で質疑討論をする。 なお、学生は発表した内容に質疑応答による修正等も加えて、後日、中間報告を提出する。これをもとに最終発表と最終レポートの作成に向けた指導を受ける。					
本時の評価の視点(参観の視点) ① 学生が意欲的に調査研究に取り組んでいたか。 ② 発表は分かりやすかったか。 ③ 学生が質疑討論に積極的に加わっていたか。 ④ 発表と質疑討論によって、科学的な事象等に対する理解を深められたか。					